

# 自然環境だより

テーマ: 自然環境保全分野コンサルタントの皆様との意見交換会

## 離任のご挨拶

JICA 関西国際センター所長〔前 JICA 地球環境部審議役兼次長  
(森林・自然環境グループ長)〕 宍戸 健一

小職は、この度 4 月 1 日付で、JICA 関西国際センター所長を拝命いたしました。2013 年 6 月より、3 年 10 か月に亘り、自然環境保全分野を担当させて頂き、皆様方には大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。この間、特に 2015 年は国際協力全体にとって節目の年となりました。同 7 月には、『ODA 大綱』が見直され、『開発協力大綱』となり、「地球規模課題への取組」の中で気候変動対策や生物多様性の保全の取組がよりハイライトされるとともに、日本再興戦略に資するため民間企業との連携強化なども打ち出されました。また、同 9 月の国連サミットでは、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択され、Goal 13、Goal 14 及び Goal 15 等において、自然環境保全の重要性が謳われました。そして、同 12 月には、気候変動枠組条約 COP21 において、パリ協定の合意が成立し、気候変動対策としての森林保全(第 5 条)や市場メカニズム(第 6 条)の重要性が謳われました。

このように、私たちの事業を取り巻く環境も大きく変化していく中、私たちのグループでは、「自然環境保全分野・事業戦略 2013-2020」を立案、随時改訂し、事業を展開して参りました。皆様方には、各事業での取り組みはもちろんのこと、COP 等国際会議やイベント、各種勉強会などでの発信や議論では、大変お世話になりました。

今後、JICA の自然環境分野の取組みを、更に競争力があるものとしていくことが求められていると思います。国際社会の動きを睨みつつ、他ドナーや民間セクターとの連携など含めて様々な取組が求められていくものと思われ、これまで以上に、関係省庁、専門家、コンサルタントや民間企業等の皆様と緊密な連携が必要になってくると思います。

後任者の森田隆博にも、小職に頂いたものと同様、ご指導・ご鞭撻のほど、宜しく願いいたします。

小職は、今後は、関西 2 府 4 県を主たる現場とした国際協力を実施・促進する立場となりますが、皆様とは様々な場面でお世話になることもあろうかと思っております。引き続きよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら皆様のご活躍と安全を祈念しております。

## 目次

- 離任挨拶
- 着任挨拶
- 自然環境保全分野コンサルタントの皆様との意見交換会



JICA 関西国際センター所長〔前 JICA 地球環境部審議役兼次長(森林・自然環境グループ長)〕 宍戸 健一

## 着任のご挨拶

JICA 地球環境部次長兼森林・自然環境グループ長 森田 隆博

宍戸の後任として着任しました森田と申します。JICAフィリピン事務所での約3年の勤務を経て、4月から地球環境部次長を拝命致しました。「森林・自然環境保全」という国際社会及び日本にとって重大な課題に、国際協力の立場から携わる機会を与えられたことを、非常に光栄に感じております。

思い起こせば、世界全体で環境問題に取り組むというムーブメントを生むきっかけとなったリオデジャネイロでの地球サミットが開催されたのは、冷戦終結後間もない1992年のことでした。

当時社会に出て間もなかった私は、無邪気にも、これからの世界は、環境問題も含めて、どんどんよい方向に向けて変わっていくのだろうとの漠然とした期待を胸に抱いていました。あれから20数年、紛争や過激主義、その温床ともなる貧困や格差、気候変動に起因するといわれる大規模自然災害は、依然として多くの人びとの命と尊厳を脅かしており、冷戦終結後の楽観ムードに浸っていた当時の自分はなんとナイーブだったのかと、我ながら呆れる思いがします。

世界は(私個人もそうなのですが)、年を追うごとに混沌を深め、世間では将来への不安や閉塞感を訴える声の日ごとに強くなっているような気がします。ただ、そのような状況においても、2015年に、国連サミットにおいて「持続可能な開発目標(SDGs)」が合意されたことや、地球温暖化対策の新しい国際ルール「パリ協定」が採択されたことは、ある種の理想を広く人びとと共有するという意味合いにおいて、大きな希望を予感させてくれました。希望は、ないよりはあった方がいいですね。

そのような希望がある一方で、昨今ではトランプ大統領による温暖化対策の見直しが大きく報道されているように、自然環境分野の取り組みは、国際政治潮流に大きく左右される宿命にあります。20数年前の自分を思い起こし、今日からはいろいろな浮き沈みがあることを前提として、揺るぎない希望を持って開発協力における森林・自然環境問題に、取り組む覚悟が必要だと、日々思いを新たにしています。

前任の宍戸が中心となり関係者の皆様と築き上げてきたパートナーシップをさらに発展させることを通して、開発の恩恵から誰一人取り残されない世界の実現に向けて、みなさまとともに歩んでいければ幸いに存じます。今後とも変わらぬご支援を賜りたく、どうぞよろしく願いいたします。



JICA 地球環境部次長兼森林・自然環境グループ長 森田 隆博

## 自然環境保全分野コンサルタントの皆様との意見交換会

3月27日(月)自然環境分野の現場で活躍されるコンサルタントの皆さんとの意見交換会を行い、約30名の方々に参加いただきました。JICA側から、①米政権交代後の国際情勢、②日本の技術の活用、③途上国の視点(日本人のコスト)などを踏まえ、JICA事業のあるべき方向や人材育成等について、参加者の皆様とフリーディスカッションを行い、忌憚ないご意見をいただきました。全てはご紹介できませんが、主な意見を以下に整理いたしました。特に日本の技術協力の価値をどのように出していくのかという点について熱い議論が交わされ、今後、JICAが事業を進めていく上での貴重なご意見をいただきました。ご参加いただいたみなさん本当にありがとうございました。

### 1. 国際的な資金を活用して日本の技術を売り込め！

- ✓ 緑の気候資金(GCF)などを活用して、REDD+に限らず日本の適応の技術などは売り込み(案件形成)をかけていくべき。民間企業や国際NGOにはハードルが高いがJICAならば、できるのではないかな？
- ✓ 米の政権交代により、マダガスカルのUSAID事業が撤退して、他ドナーが入り込んでくるなど、ドナーの図式が変わることにも注意を払うべき。

### 2. 民間資金の活用やグリーンエコノミー推進をすべし！

- ✓ GCFなど公的な資金は、新規拠出が見込めない中で、枯渇する可能性があり、ビジネスポテンシャルが大きな国や課題での民間連携が重要。グリーンエコノミーの推進が必要。

### 3. 日本の技術協力の価値をアピールすべし！

- ✓ 途上国の人々にとって、日本人の件費は高額であり、カウンターパートに開示しづらい。
- ✓ 技術協力事業単独では、日本人の件費は高額に見えるが、技術協力和円借款と組み合わせると、質の高い事業が展開できる。(本分野円借款の実現可能性が高い国は、インド、ベトナム、ペルー程度とのコメントあり)
- ✓ ローカル人材が育っている国(例:インドネシア)とそうでない国(例:ミャンマー等)では、状況が異なる。
- ✓ JICAの技術協力は、研修だけで終わりではなく、柔軟かつ先方に寄り添って丁寧に協力しているため、理解してくれる人からは評価が高い。
- ✓ 他のドナーの活動と比してどうやって売り込んでいくかが課題。コンサルタントもPDMに書かれているだけでなく、どうやって付加価値・インパクトを出していくかを考えていく必要がある。
- ✓ 同じ意見であるが、技術協力の質の高さ(価値)をどのように立証するかが課題。例えば、(インフラのように)コストは高くとも、プロジェクトの持続性が高い等何をもたらしたか?がある程度定量的に示せれば、途上国側や日本国民の理解を得やすい。
- ✓ FAOやUN-REDDなどは先端的な技術を持ち込んでいる場合があるが、持続性の視点が欠けていることもあり、JICAがブレーキをかけていく役割を果たす必要もある。
- ✓ プロジェクト終了後のスケールアップ(のためのキャパビル)には、非常にコストがかかる。国のコミットを始めから得るのは難しい。
- ✓ 技術協力を巡る議論は、相手国の状況によっても大きく異なることに留意すべき。

#### 4. その他意見

- ✓ 外部資金活用にしても、まずは日本人の人材育成が重要である。
- ✓ Eco-DRR の推進のためには、データの蓄積が必要。(完全なデータがなくとも推進すべきとの意見あり)
- ✓ 森林の持つ多面的な機能への理解を促進すべきである。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

バックナンバー

[http://www.jica.go.jp/activities/issues/natural\\_env/nature\\_info.html](http://www.jica.go.jp/activities/issues/natural_env/nature_info.html)

JICA 地球環境部森林・自然環境グループ

自然環境保全課題支援事務局

TEL: 03-5226-6656 FAX: 03-5226-6343

e-mail: [getf2-nature@jica.go.jp](mailto:getf2-nature@jica.go.jp)

※重要※登録情報について

配信が不要になった方やメールアドレスを変更されたい方は、お手数ですが、事務局までご連絡ください。よろしく申し上げます。